

# 「根津山と山の神」

矢島勝昭

●「あーあ、折角よく寝ていたのに、騒々しい奴らがおるわい」。大きな欠伸をしてぶつくさ言っているのは、根津山の椎の古木を棲家としている山ノ神。懐から取り出した飯盛り杓子をぼんぼん打ち鳴らして、下の枝のカラスを起こした。「東の方が騒がしい、見て参れ」「はい神さま」。根津山は武蔵野台地の東端、山といっても子供のでべそのような小丘で、現在で言えばJR池袋駅の東、豊島岡女子学園付近に位置する。

●「わかりました、わかりました。太田道灌の軍勢が、豊島氏と交戦、平塚城（上中里）から江古田原へ向かうところです。三日後、今度は西の方から鎧摺れや馬の嘶きが聞こえてきたのでカラスが見に行った。「戦に勝った道灌の軍勢が、山の西の池で汚れた旗を洗っているところです」（後、道灌旗洗いの池）「左様か、源義家が奥州を鎮圧して都へ向かったときや、平家追討と言って十万の大軍を率いた頼朝が鎌倉へ向かったときも、騒がしくしてわしを不愉快にさせおった」。

●とはいえ山ノ神は月に一度山の木を数えて回るだけで、普段は木の枝で居眠りばかりだ。こんな事もあった。伝説では將軍吉宗公が、「一番速く一番広くこの山の雑木林を巡った者に、巡っただけの土地を与える」と。それを請けた乗馬の名手、旗本三千石中西公が競争相手を降し根津山三万余坪を拝領したという。だが、人間界の瑣事は気にしない。山ノ神はそれらを超越した存在である。

●カラスが巷の噂話を伝えにきた。「山の西の古池に、主の大蛇がいるため、誰も近寄れなかったが、あるとき『主などいるはずがない』と密かに古池へ釣りに出かけた二人連れ、夢中で竿を振っていたが、ふと木の又から爛々と光る目に気づいた。「うわぁ大蛇だ」二人は竿をほっぽり投げて一目散に逃げ帰ったが、一人は七日間も寝たきり、もう一人も一ヶ月ほど高熱にうなされた。その後会う人ごとに『大蛇の太さは大きな鉄瓶ほどもあった』と申ししていたそうです」。

●山ノ神が言った「古池と大蛇の話は外にもある。杉並の高井戸宿には「池袋」という小字がある。湿地で池もあり、そばの神田川には「池袋橋」という橋もある。ここにも同じような大蛇伝説があるんじゃない。神田川の水源、井の頭池にも大蛇伝説がある。両方とも大蛇は打ち殺さ

れたという。高井戸宿は高井戸東と名が変わるのじゃが、高井戸の大蛇話はどうやら井の頭の話の亜流らしい」。

●それから百年。「神さま起きてください」。飛び込んできたカラス。「山の西の古池跡に映画館の建築が始まりましたよ。」「ところが工事がなかなか捗らないとってます」報告はさらに続く「うす汚い老人が『ここはむかし蓮池といって、弁天様の祠があった所だ。そこに映画館の便所なんか造るから、弁天様の怒りに触れて工事が捗らんのだ』。これを聞いた関係者が慌てて便所を他の場所へ移したそうです」1947年のことだった。「建築現場から目を離すな」。山ノ神はそう言い残して出雲へ旅立った。神無月も明けて正月に戻ってきた山ノ神を待ち受けていたカラス、「映画館は来月・落とすだそうです。人世坐とか言うそうですよ」。

●太平洋戦争後、根津山の小丘は削られ、雑木林も全て伐採、銀行などのビル街がそれに取って代わった。椎の古木も当然無くなった。山ノ神もカラスも出雲へ戻ったのか、いつの間にやら姿を消した。根津山を縦断して新道ができ、さらに拡張された道は並木も整然と植えられ「グリーン大通り」と名づけられた。

資料＝豊島区史・高田町史・豊島の歳時記・豊島風土記・群像豊島の文化人・新編武蔵風土記稿。

## 前回掲載「雑司が谷・高田の七不思議」の続編

●南蔵院から約千メートル北、法明寺の西に小道を隔てて姫塚があり、そばに古く節くれだった椿の木があった。夜更けにここを通れば、椿は妙齡な美人に姿を変えて後ろから声をかけ、時には瘦せた老僧となって立ち塞がった。里人は恐れて「お化け椿」と呼んで夜は通行を避けたという。

●法明寺の鐘樓のそばに石仏があった。昔は池袋駅付近にあったものだ。ある夜、高田の某御屋敷の使いの男が板橋方面から戻ってきた。最善から抜刀した四五人の追いはぎの足音がついていた。男も気付いてはいたが、もはや疲れて走ることもできず、月明かりで見つけた小さな石仏の背中に身を隠していたが、やってきた追いはぎたちは石仏をなでたり小突いたり。だが不思議に彼らには男が見えないらしい。「くそっ」と叫んで雑司が谷の闇に消えた。その後男は石仏を法明寺の鐘樓付近にお迎えしたという。了（資料＝高田町史）

### 企画／発行

池袋南地区まちづくりの会  
豊島区都市整備部住環境整備課  
電話 直通 3981-2612 片山/増田/和久井

### 編集協力

株式会社 防災アンド都市づくり計画室  
電話 03-3378-1960 吉川/小野

# ぞうしがや

## たくさんの笑顔と笑顔

### 第4回防災まちづくりイベント

第4回の防災まちづくりイベントは、天気にも恵まれた11月5日（日）に南池袋小学校で行われました。今年は300人の方が参加。煙体験や消火訓練のほか、かざぐるまづくりや木工教室などのコーナー、新たに作られた地域を話題にした紙芝居やカルタなどを体験し、また焼きそばやポップコーンなどに舌鼓をうちました。

楽しみながら学ぶ防災訓練が、このイベントのテーマです。毎年行うことによって、イベントが地域の皆さんに親しまれ、それと共に、知らず知らずのうちに防災力が身につく、そんなイベントになってきたようです。



## あとわずか

工事が行われていた南池袋保育園跡地のひろばは、いよいよ3月末に完成・オープンを迎えます。地域の方々には工事中、何かとご迷惑をおかけしたことと思ひます。ご理解とご協力に改めて感謝いたします。



整備が進むひろば (2月19日撮影)

## 名前は投票で

ひろばの名前については、まちづくりニュースで投票をお願いし、防災まちづくりイベントでも、参加者に投票していただきました。その結果、もっとも多くの方々から選ばれた名前が「南池袋ふくろうひろば」です。

まちづくりの会では、この名前をひろばの正式名称にさせていただくように区に要望書を提出しました。それを受けて区では議会の承認を得て、正式名称としました。

## 井戸にも名前 つるまきの水

ひろばには災害時にも利用できるように、深さ50mの井戸が掘られました。深いので、災害時にも安定した水が出るのが期待されます。水質については、飲料にすることは出来ませんが生活用水としては利用することができます。

地域ではこれまで、民間の井戸を整備しながら、地域の方が災害時に利用できるようにしてきました。そして、それぞれの井戸には名前をつけてきました。この地区ではすべての名前が「水」となっていることが特徴です。そこで、今回整備した井戸にも名前をつけることにしました。会で協議の結果、弦巻川や弦巻通りにちなんで「つるまきの水」と名づけました。

## ひろばの管理

このひろばは公園となりますので、普通なら24時間開放が原則となります。しかしこれまでの話し合いで地元の方からは、夜間の使い方などで近隣の迷惑になるようでは困るという意見が寄せられました。

そこで、このひろばには入口に扉を設置しています。扉には開け放しにしないように注意書きを掲示します。鬼子母神の隣の雑司が谷みづく公園でも、夜間の使い方についてはいろいろな心配が出ました。しかし、出来上がってみるとそれほど問題が起きていないということが参考になります。

問題が起こる前に未然に防ぐような雰囲気づくりと、万が一何か起こった時に直に対応できる体制づくりをすることが必要ではないかという意見が大勢をしめています。

## ひろばの清掃

ひろばの基本的な清掃は区が行います。それと同時に、普段からひろばを見守りながらの日常的な清掃については、地元の皆さんが協力して行うことにしました。ひろばを集う場所にして地域での親睦も図れるような、そんな会をつくりたいと思います。どうぞ、お誘い合わせてご参加ください。



池袋南地区のまちづくり井戸

## 募集 ひろばのお掃除クラブ

いっしょに掃除をしながら、ひろばを見守りませんか。どなたでも参加できます。ふるってご参加ください。

●お申し込み・お問い合わせは  
まちづくりの会事務局

豊島区住環境整備課住環境第二係まで  
電話：3981-2612

## ひろば開きと井戸開き

日時：平成19年3月31日(土) 10:00～

場所：南池袋ふくろうひろば

- 内容：●テープカット ●井戸のお清め
- 防災設備体験(井戸、かまどベンチ、非常用トイレなど)
- 甘酒おふるまい

## 鬼子母神を守れ

文化財保護デー

1月26日は文化財保護デー。鬼子母神では豊島消防署が放水訓練を行いました。雑司が谷は区内でもっとも文化財が集まっているところ。これらを守ることも大切なまちづくりです。(写真提供：豊島消防署)

